

令和 2年度

事務事業評価表 (令和元年度 の実績評価)

記入年月日
令和 2 年 4 月 10 日

事務事業名		通学バス運行委託事業				事業区分		担当		
						新規/継続	継続	事務事業No.	020103000142	
						単独/補助	単独	所属課	090101	
政策体系	総合計画の施策名		0201 学校教育の充実						学校教育課	
	政策名		02 生きがいを育む学びのまちづくり						課長名	
	施策名		01 学校教育の充実						グループ	
	手段名		03 ③教育環境の整備						担当者名	
		財務会計上の位置付け				事業期間				
予算科目	会計	款	項	目	事業	細	一般会計			
	01	10	02	01	02	00	小学校管理事業			
法令根拠							単年度繰返し (昭和60 年度~)			
						☞ 期間限定の場合、総投入量を (3) 投入量の右側に記入				

【Do】 1. 事務事業の現状把握 (その1)

(1) 事務事業の概要	
①事務事業の概要 (事務事業の全体像)	②担当者が行う業務の内容・やり方・手順
<p>岩瀬地区の長方、大泉、富谷、門毛、小塩、真壁地区の酒寄に置かれていた各小学校分校の廃止により、旧分校学区の小学校1から3学年生までの児童の安全な通学手段として実施。</p> <p>岩瀬地区は長方・大泉地区で1台、そして門毛・小塩・富谷地区の児童で1台、合計2台のバスを借り上げている。</p> <p>真壁地区は酒寄地区の児童が、平成28年上半期は乗合タクシーを、下半期からは広域連携バスを利用して登下校している。平成30年度の桃山学園開校により、自宅が桃山学園から2.5km~3.5kmの前期児童1~3年生と3.5km以上の前期児童1~6年生が通学支援の対象となっている。</p>	<p>小学校との対象児童、乗降所の確認。</p> <p>通学バス運行委託契約の締結、及び請求に基づく委託費用等の支払い。</p> <p>広域連携バス利用者へのバスの発行。</p>

(2) 事務事業の手段・対象・意図と各指標、指標値の推移

①手段 (担当者の活動内容)	④活動指標 (活動量を表す指標)	単位	30年度 (実績)	01年度 (実績)	02年度 (計画)	03年度 (目標)	04年度 (目標)
運行委託契約の締結及び請求に基づく委託費の支払い	通学バス運行委託	台	2.00	2.00	2.00	2.00	2.00
	通学タクシー運行委託	台	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00
	デマンドタクシー運行手配	台	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00
	公共交通バスバス発行	枚	48.00	50.00	45.00	45.00	45.00
②対象 (誰、何を対象にしているのか)	⑤対象指標 (対象の大きさを表す指標)	単位	30年度 (実績)	01年度 (実績)	02年度 (計画)	03年度 (目標)	04年度 (目標)
通学支援対象者	通学バス実施対象校	校	4.00	4.00	4.00	4.00	4.00
	小学校の児童数	人	1,979.00	1,898.00	1,821.00	1,821.00	1,821.00
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
③意図 (この事業によって対象をどう変えるのか)	⑥成果指標 (対象における意図の達成度を表す指標)	単位	30年度 (実績)	01年度 (実績)	02年度 (計画)	03年度 (目標)	04年度 (目標)
遠方から通学する児童が安全に登下校できる。	通学支援児童数 (岩瀬地区)	人	81.00	81.00	81.00	81.00	0.00
	通学支援児童数 (真壁地区)	人	48.00	67.00	67.00	67.00	67.00
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

(3) 投入量 (事業費) の推移

投入量	事業費内訳	国庫支出金	千円	0	0	0	期間限定 総投入量
		県支出金	千円	0	0	0	
		地方債	千円	0	0	0	
		使用料・手数料	千円	0	0	0	
		その他	千円	0	0	0	
		一般財源	千円	17,491	0	0	
		事業費計 (A)	千円	17,491	0	0	
		正規職員従事人数	人	1.00人	1.00人	1.00人	

事業費の内訳	01年度事業費 実績 (千円)				02年度事業費 予算 (千円)			
			合計	0			合計	0

事務事業名	通学バス運行委託事業	事務事業No.	20103000142	所属課	学校教育課
(4) この事務事業を開始したきっかけは、いつ頃どんな経緯で開始されたのか？ 開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか？					
旧岩瀬町で昭和60年度の長方、下泉、大泉、富谷、門毛、小塩分校の廃止により、旧分校学区の1から3年生までを対象に通学時の安全の確保と利便性の向上のために通学バスでの送迎運行を始めた。 旧真壁町では昭和53年酒寄分校廃止により、分校に通っていた1、2年生が筑波鉄道利用となったため、通学費の補助が開始された。その後鉄道が廃止されバス路線になったが補助事業は継続された。合併後対象が3年生まで引き上げられた。					
(5) この事務事業に対して関係者（住民、議会、事業対象者、利害関係者）からどんな意見や要望が寄せられているか？					
分校廃止に伴い行っている事業であるが、通学バス対象区域以上に遠距離から通学している地区がある。他の地区についても見直す必要がある。					

【See】 2. 評価の部 *原則は事前評価。

評価項目	
改革改善を行う	① 政策体系との整合性 (この事務事業の目的は市の政策体系に結びつくか？意図することが結果に結びついているか？)
	<input checked="" type="checkbox"/> 結びついている 遠距離の区域から小学校へ通学する低学年児童の安全を確保することは、教育環境の整備に結びつく。
	② 公共関与の妥当性 (なぜこの事業を市が行わなければならないのか？税金を投入して、達成する目的か？) (法定受託事業はその名称)
	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当である 小学校低学年児童の登下校時の安全対策として実施することは、市が行うべきである。
有効性	③ 成果の向上余地 (成果を向上させる余地はあるか？成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか？何が原因で成果向上が期待できないのか？)
	<input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がある 限られた時間内での安全確保が最優先である。児童数の減少による運行ルートや利用する児童数に応じて適切なバスの車種を選定などの検討が必要。
	④ 廃止・休止の成果への影響 (事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？)
<input checked="" type="checkbox"/> 影響有 少子化による通学班が減少する中で、事業を廃止した場合は、児童の安全確保が難しい	
効率性	⑤ 類似事業との統廃合・連携の可能性 (類似事業や統廃合の可能性はありますか？(市以外の取り組みも含む)) (他に手段がある場合) <input type="checkbox"/> 具体的な手段、事務事業名
	<input checked="" type="checkbox"/> 余地がない 類似事業はない。
公平性	⑥ 事業費・人件費の削減余地 (成果を下げずに事業費を削減できないか？やり方を工夫して延べ業務事業を削減できないか？)
	<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない 今後当該地区での公共交通網が整備されれば、事業費の削減は期待できる。一方で、小中学校適正配置が進むことで遠距離通学者が増加するため事業費は増える。
	⑦ 受益機会・費用負担の適正化余地 (事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？)
	<input checked="" type="checkbox"/> 公正・公平である 遠距離から長時間の徒歩で通学するには安全上の危険性が増すことから、通学支援は妥当である。一方で他の小学校区でも遠距離通学児童も見受けられ、小中学校適正配置計画を進める上で検討が必要である。

【Plan】 3. 評価結果の総括と今後の方向性 (次年度計画と予算への反映)

(1) 1次評価者としての評価結果		(2) 全体総括(振り返り、反省点)																								
① 目的妥当性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ② 有効性 <input type="checkbox"/> 適切 <input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地あり ③ 効率性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ④ 公平性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり	⇒	・小学校分校廃止に伴い行われている事業であり対象地区から通学する児童の安全確保に必要である。 他の地区でも遠距離通学児童が見受けられ、通学バス利用の要望もある。今後、利用者や学校・PTA等の意見、地域の交通事情等を調査、検討する必要がある。																								
(3) 今後の事業の方向性		(4) 改革・改善による期待成果 (終了・廃止・休止の場合は記入不要)																								
<input type="checkbox"/> 終了 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 改革改善を行う <input type="checkbox"/> 現状維持		(複数回答可) <input type="checkbox"/> 目的の再設定 <input type="checkbox"/> 効率性の改善 <input checked="" type="checkbox"/> 有効性の改善 <input type="checkbox"/> 公平性の改善 <input type="checkbox"/> 統廃合ができる <input type="checkbox"/> 連携ができる																								
(5) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題(壁)とその解決策 市内学校の適正配置を検討していく中で、通学支援に関する基準も検討していくべきである。		<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">成果</th> <th rowspan="2">向上 維持 低下</th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td style="text-align: center;">○</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td style="text-align: center;">X</td> <td style="text-align: center;">X</td> <td style="text-align: center;">X</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td style="text-align: center;">X</td> <td style="text-align: center;">X</td> <td style="text-align: center;">X</td> </tr> </tbody> </table>		成果	向上 維持 低下	コスト			削減	維持	増加					○			X	X	X			X	X	X
成果	向上 維持 低下	コスト																								
		削減	維持	増加																						
				○																						
		X	X	X																						
		X	X	X																						
		(6) 事務事業優先度評価結果																								
		成果優先度評価結果 <input checked="" type="checkbox"/> ⑤																								

【Check】 4. 確認及び改革改善に向けての指摘事項

(1) 課長評価	(2) 部長確認及び評価 (課長評価により、C、D判定及び確認が必要な場合)
課長確認後の評価 <input checked="" type="checkbox"/> B A: 継続(現状維持) C: 終了、廃止、休止 B: 継続(改革改善を行う) D: 2次評価へ提出	確認欄 <input checked="" type="checkbox"/> 確認